

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第101号

[2017年12月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第101号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



賛助会員の皆様へ 会員更新のお願い

平素よりメータオ・クリニック支援の会（JAM）の活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、賛助会員の皆様へ会員の更新をお願いしたく、ご連絡いたします。

当会は賛助会員の更新時期を年末に揃えさせていただいております。今回、平成28年7月～平成29年6月までにご入会および更新してくださいました皆様へご案内させていただきます。

これまでJAMの活動を応援してくださり、誠にありがとうございました。引き続きご支援を賜りたく、ご賛同いただける方は下記の要領にて会員更新の手続きを宜しくお願いいたします。

更新の対象となる皆様には、年内にJAMオリジナルカレンダーと共にご案内の文書を郵送いたします。ご不明な点は、事務局（support@japanmaetao.org）までお問い合わせください。

更新の対象となる方：平成28年7月～平成29年6月までに入会および更新いただいた皆様

会員期間は平成29年12月末をもちまして終了となります。

更新いただける場合は、お手数ですが平成30年1月末までに手続きをお願いいたします。

更新後の会員期間は平成30年12月末までとなります。

すでに会員期間が過ぎてしまった皆様におかれましても、新たに賛助会員としてご支援いただきましたら大変有り難く存じます。手続きの方法は同じです。どうぞよろしくをお願いいたします。

なお、更新を希望されない方につきましては、手続きはご不要です。またご支援いただける機会をお待ちしております。

賛助会員 更新手続き（年会費入金）の方法について

■下記の年会費をお振込みください。

ホームページ（www.japanmaetao.org）からクレジットカード決済も可能です。

「あなたとできること」→「賛助会員になる」の下「クレジットカードによるお申し込みはこちら」へお進みください。

<年会費> 一般会員： 3,650円/年
 学生会員： 1,825円/年
 法人会員： 36,500円/年

<振込先口座>

ゆうちょ銀行（銀行コード9900）

支店名：〇一八（ゼロイチハチ）

口座名義：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会
 （カタカナ） トクヒ）メータオ クリニックシエンノカイ

口座番号：10140-8960841

*他行からのお振込みの場合 普通 0896084



（写真：渋谷敦志）

※ 当会が入金の確認をもって手続き完了となります。メールにてお知らせいたします。

■注意事項

・住所、氏名、メールアドレスに変更がある場合、振込名義がご本人でない場合は、事務局（support@japanmaetao.org）までご連絡ください。

※ 期限を過ぎてからご入会される場合は、ホームページより新規の方法でお手続きください。



メソトマンスリー

【メソト=齊藤 つばさ】



みなさま、いつも暖かいご支援をありがとうございます。

先日、友人から「いつもインスタグラムみてるよ～。病院の中だけじゃなくて、患者さんがどんなもの食べているのか、町並みとか、もっといろいろな写真をみたい。」と言われました。いつもどんな写真がいいのか悩んでいるので、このように伝えてもらえると助かるな一と思いました。みなさまもご意見・ご感想がありましたらインスタのコメント欄にコメントよろしくお願いします。

11月は訪問者の方々がたくさんいらっしゃいました。

阪神タイガースの鳥谷選手が、レッドボードの活動で靴を届けにメソトへいらっしゃいました。

メラ難民キャンプと、メータオ・クリニックがサポートしている移民学校の寄宿舎へ訪問されました。その後、メータオ・クリニックへも訪問され、短い時間でしたが、院内を見学されました。

(写真右：鳥谷選手と一緒に撮った写真)



メータオ・クリニックの資金難に対する撮影もありました。

シンシア先生や他スタッフから貴重な話を聞くことが出来ました。ヤフー動画で配信されるということです。

JAMの活動も特集されるようです。

(写真右：撮影風景)



最近のメソット

(1期生について)

1期生の看護技術を再チェックしました。

配属された科によって頻繁に行う看護ケアに違いがあるため、あまり行われぬ看護ケアは、「やり方はわかるけど、細かいところがあやふやだな～」とスタッフの自己流になりがちです。2期生がタイの病院の研修から戻ると、技術チェック後に各病棟へ配属されます。2期生が配属された時に「これは何?」「どうやるの?」と1期生が質問された時に、「きちんとチェックリストに沿った手順で対応出来る」という目的で看護技術の再チェックを行いました。



目的は決まりましたが、看護技術チェックリストが36項目あることや、10月に病棟の全職員対象に基本的な技術（バイタルサイン測定、採決など）の技術チェックが行われていたため、それらと被らないような看護に特化した内容（清拭、創部処置、吸引、移乗など）を選びました。



実際の技術チェックの様子（写真右：創部処置）

スタッフ：「去年の技術チェックで、創部処置は得意じゃなかった。」と不安そうな表情でした。
私：「大丈夫、まずは外科のスタッフの見学をしてもらいます。わからないところを分かるようにしていくのが目的です！テストじゃないから、わからないところがあったら聞いてください。」

～見学後～

スタッフ：「他の創部はこのまま触っていい？」

私：「手袋が汚染されているから、手袋を変えてから他の傷を触るようにしないと、感染を広める原因になる。」

スタッフ：「ここはポピヨドン使う？必要ない？」

私：「まずは感染兆候があるかアセスメントして、ないと思う？そしたらポピヨドンは必要ないよ。」

～処置後～

スタッフ：「感染兆候について復習しようと思った。」

この感想を聞いて、今回の機会を設けてよかったなと思いました。

また、「こんな患者のときはどうすればいい？」と実際に働いている時に会った患者の個別性に焦点を当てた質問があり、実務経験があると疑問点に思う点も研修生と違うなあと改めて感じました。（10月の研修生からの質問だと、「この資料にはAと書いてあるし、こっちの資料にはBと書いてあって、どっちが正解なのかわからない」ともって教科書的な内容でした。）

看護スタッフへ今回の再チェックについて感想を聞きました。

A：「私は普段沐浴しかしていないから、大人への清拭は大変だった。一人しかスタッフがいない時の内科は大変そうだ。」



（写真3：患者の足を降ろしている時。）

B：「普段は産科なので、体力が弱い妊婦の移送に車いすを使っている。麻痺のある患者の介助は支えるところが異なっていた。」（写真3）

患者の介助の必要度によって、「何人の介助が必要か?」「片麻痺の患者と筋力が弱いだけの患者だと介助に何が違うのか?どこが違うのか?」と話し合いながら、スタッフ同士で練習し、具体的に対応できるようになったようです。

c:「復習して自信をもって出来るようになったので、他の科が忙しい時に手伝えそう!」という意見が出て、年末や行事で帰省しているスタッフが多い時期など、お互いにサポートしあえる関係はとてもよいなと感じました。

(2期生について)

2期生がタイの病院で看護研修を行いました。

5週間タイの病院に泊まり込みで研修を行っていました。今回の研修は日本の病棟実習とだいぶ異なっていたので軽くご説明します。

日本の場合:看護学生1グループごとに担当教員が付き添いし、各病棟に1-2人の実習担当の看護師がいる。実習中は、教員や担当看護師と共に、看護ケアの見学や実施を行う。

タイの場合:教員は同伴しない。1人の学生に対し1人の担当看護師が付き、その看護師の業務に合わせて看護ケアの見学や実施を行う。

そのため、研修生と生活面のサポートのためのスタッフ1人のみでの研修となり、看護研修に関わっているボランティア看護師は毎日同伴せず、研修期間中1・2日程の見学のみとなりました。

研修内容は、産後の患者・内科外科混合病棟・滅菌室(IPU)、小児科、救急外来の5科をまわり、各科の看護ケアの見学や実施を行いました。

バイタルサイン(血圧や脈拍)の測定や配薬などメータオ・クリニックで行っている業務に加えて、心電図の12誘導や手術器具のガス滅菌などメータオ・クリニックにはない物品についても学びました。



(写真左:救急外来で12誘導を研修生同士で取り合い、波形のみかたを教わっている様子)



(写真左：タイ病院での研修の閉会式)

国内から

【東京＝秋山】

皆様こんにちは。

JAMの理事をしております秋山と申します。皆様からの温かいご支援に御礼申し上げます。

本会には、設立当初から所属しており、以前は一年に一回は、メーソットに学校保健の関係で滞在しておりました。最近の仕事の関係もあって残念ながら、なかなか現地を訪れる機会がありません。先日、東京にて開催された神谷看護師の帰国報告会に出席した際に、現在のメーオ・クリニックの様子を映像で見ることが出来ました。建物は昔と比べ立派になり変化を感じましたが、スタッフの中に懐かしい顔を見つけ、とても懐かしく思い返しました。

本会主催のスタディツアーも初期のころは私も同行したことがあります。スタディツアーは、現地でしか体験できない事物がありますので、まだの方には是非、参加をご検討いただければと思います。私自身が、現地に初めて行った際に驚いたことは、異なる民族が混在して暮らす様子でした。文化的には、タイとビルマ／ミャンマーで、主要な宗教はどちらも仏教となりますが、両者は言語ではまったく異なります。タイ語は「動詞—目的語」となり、ビルマ／ミャンマー語は「目的語—動詞」の順となります。「ご飯食べる」はタイ語ではキン・カーオ（食べる・ご飯）で、ビルマ／ミャンマー語は日本語のようにタミンサー（ご飯・食べる）です。

クリニック内や、移民コミュニティではビルマ／ミャンマー語、カレン語や少数民族の言語が話されますが、クリニック外ではマジョリティーであるタイ語が話されています。クリニック内は、わりかし英語が通じますが、クリニックの外で、業務上の買物や移動の手配等する際は、タイの人は英語が通じないことも多く、タイ語が必要となります。ただ、やはりクリニックのスタッフと親しく話すには、ビルマ／ミャンマー語かカレン語となります。私は結局どれも中途半端になってしまいました。本会設立当初に派遣されていた、梶看護師はビルマ・ミャンマー語が非常に流暢で、羨ましかったのを覚えています。

さて、私は現在、長野県のある大学に講師として勤務しております。今年で、4年目になりますが、今になっても教えることの、やりがいと難しさを感じている次第です。先日の報告会でも、現地で人を育てることの醍醐味が語られていたと思います。技術の向上により、個々のスタッフが自信を持ち、より効果的なサービスを提供できるクリニックになることと思います。



ミャンマー国内の情勢は、まだまだ地方での保健医療体制が充実するには程遠い状況です。政治的にも、民主化されたといっても難しい問題やその限界が見えてきたかとも思います。そのような状況の中、当会会員の皆様のご支援があることは、クリニックのみならず、現地の住民への福利においても、かけがえの無いものです。今後とも、会員の皆様のご支援に感謝いたしますとともに、本会の活動にご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

現地派遣員 神谷看護師：帰国報告会のご報告

11月25日(土)、東京大学にあるダイワハウス石橋信夫記念ホールにて現地派遣員神谷看護師の帰国報告会を開催しました。当日は今年スタディツアー参加者さんにもお越しいただき「スタディツアーを通して感じたこと」としてツアーの様子をご報告いただきました。また、ゲストスピーカーとしてタイ-ミャンマー国境で撮影を続けてきたドキュメンタリー映画監督 松林要樹氏にもご参加いただき、タイ-ミャンマー国境について映像を交えてお話いただきました。47名もの皆様にお越しいただき、スタッフ一同より感謝申し上げます。



神谷看護師は「2年間の活動を振り返って～メータオ・クリニックでの看護支援事業の取り組み～」と題して、赴任時より取り組んできた看護事業に関して、これまでの成果や活動中の困難などを、写真を交えて報告しました。寝たきりだった患者さんが、看護ケアを通じて座れるようになり、食事を食べられるようになった様子は印象的でした。元気になった患者さんの姿に嬉しく感じるとともに、メータオでの看護ケアの必要性を強く感じました。ご参加いただいたみなさまからも「わかりやすかった」「もっと話を聞きたかった」などの声をいただきました。



また、松林監督からは自身がタイ - ミャンマー国境を訪れるようになった背景やこれまでの活動、そして今年11月にメータオを訪問した際に撮った映像を用いて国境の現状をお話いただきました。医療とは違った視点でメータオの現状を伝えていただいたことで「新鮮だった」「とてもわかりやすく伝わった」などの声をいただき好評でした。



会員みなさまや国境に縁のある方にお越しいただき、改めてメータオを想うたくさんの方々に支えられていることを実感しました。来年には大きな資金難に直面するメータオ・クリニックはこの先どうなっていくのか。JAMは医療支援団体としてだけでなく、日本からの応援者として、これからもみなさまと共にメータオ・クリニックを支えていきたいと思っております。

報告会は毎年開催しています。

また来年

皆様のご参加をお待ちしております！



編集後記

12月に入り、ぐっと寒くなる日が増えました。最近のマイブームは、コンビニで新商品のおいしいチョコレートを探すことです。抹茶味が大好きなので、抹茶ものは見つけたらとりあえず買い集めております。

今年もご支援いただき、誠にありがとうございました。今年も毎年恒例のJAMカレンダーを今年も賛助会員の皆様にお送りいたしますので、ぜひご活用ください。12月末にJAMにご登録いただいているご住所あてにお送りします。そして更新のお手続きをしていただけましたら幸いです。

来年もJAMのことをどうぞよろしく申し上げます。

次号の予定

次号は、1月中～下旬ごろ配信の予定です。

新しく、インスタとツイッターも開設しました。

ホームページも含め、随時更新してまいりますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。



